

橘木 俊詔 (たちばなき としあき)

1943年生まれ。小樽商科大学、大阪大学大学院、ジョンズ・ホプキンス大学院で教育を受ける。Ph.D.、京都大学経済学博士。阪大、京大教授を経て、同志社大学特別客員教授、現在は京都女子大学客員教授、京大名誉教授。その間フランス、アメリカ、イギリス、ドイツで研究・教育を行う。さらに、経済企画庁、日本銀行、経済産業省などの研究所で客員研究員を経験。元・日本経済学会会長。専攻は労働経済学、公共経済学。

和文、英文、仏文の著書、論文多数。主著として、『Wage Determination and Distribution in Japan』Oxford University Press、『Public Policy and The Japanese Economy』Macmillan Press、『Confronting Income Inequality in Japan』MIT Press、『格差社会』岩波新書、『課題解明の経済学史』朝日新聞出版、『「幸せ」の経済学』岩波書店、『青春放浪から格差の経済学へ』ミネルヴァ書房、『家計の経済学』岩波書店、ほか。